

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
<p>【第1学年】</p> <p>○目標を立てたり振り返ったり日記を書いたりする活動を取り入れ、少しずつではあるが正しく文章を書けるようになってきている。</p> <p>▽デジタルドリルの活用が不十分である。</p>	<p>【第1学年】</p> <p>●文章を書く機会を引き続き多く確保し、書きたい内容を文章に表せる力を身に付けさせる。</p> <p>▼デジタルドリルを活用して計算問題に繰り返し取り組み、習熟できるようにする。</p>
<p>【第2学年】</p> <p>○毎日時刻を読む経験をする中で、時刻を読む力が身に付いた。</p> <p>○国語の時間に音読する経験を多くしたことで、初めての文章でもすらすらと読めるようになった。</p> <p>▽算数の文章題では、思い込みで式を立ててしまうことがまだ続いている。</p>	<p>【第2学年】</p> <p>●継続して時刻を読む経験を積む。</p> <p>●国語では文章を音読する経験を継続し、語彙を獲得させ、初めて見る文章でもスムーズに読めるように指導する。</p> <p>▼文章題を解く際には声に出して問題文を読むようにし、何を聞かれているのか、どのように答えるのかを確認する習慣を身に付けさせる。</p>
<p>【第3学年】</p> <p>○語彙の幅を広げるために国語辞典を引く活動を日常的に行い、言葉の意味を自ら調べ、使えるようになってきている。日記も習慣化したことで、短い文章で表現する力が付いた。また、グループやクラス、学年の前で話す機会を設け、自分の考えを伝えられるようになっている。</p> <p>○算数では実際に500メートルを歩いて掛かる時間を測るなどして算数的活動で数量の概念が捉えられるようにした。図形も具体物を用いてその特徴が捉えられるようにしている。</p> <p>▽言葉の意味を調べる意欲はあるが、その活用ができていない。話すことに慣れてはきたが、相手の話を聞いてその内容を的確に捉えることができていないので、一方的な伝え合いで話し合いが充実しないときがある。</p> <p>▽計算の結果を見積もったり、単位から大体の数量を推測したりすることに苦労している。定規を正しく用いて直線を引くことも苦手で、コンパスを用いた正しい円の描画にも困難が見られる児童がいる。</p>	<p>【第3学年】</p> <p>●引き続き分からない言葉や漢字は国語辞典、漢字辞典を用いて自分から調べる習慣が確実に身に付くようにしていく。また学年の前で話す機会を増やすことに加え、他の学年や地域の方の前で話すなどさらに伝える相手を広げるようにする。</p> <p>200字程度の文章は全員が書けるようにしていく、自分の発想で300、400文字程度のまとまった文章が書けるようにしていく。</p> <p>●算数は具体的操作を使って数量の概念を捉える学習を継続しつつ、学習したことを生活場面で活用できるよう演習や応用問題に取り組めるようにしていく。</p> <p>▼ただ意味を調べることで終わるのではなく、その言葉を使った短作文や短いスピーチに取り組むような学習を行う。聞く活動も、相手の話を聞き取れているか質問を返すなどの活動を増やして自己で見取りができるようにする。</p> <p>▼単位変換表を手元に持ち、教室にも掲示するなど視覚的に捉え、単位変換測定や模様描画など手を動かして身体的に捉える活動を取り入れる。</p>

<p>【第4学年】</p> <p>○各教科において振り返りの時間を確保したり、毎週日記に取り組んだりすることで書く力は向上してきた。</p> <p>○コンパスや分度器の扱いに少し慣れてきた。</p> <p>▽順序立てて話したり、相手を意識して話したりすることに課題がある。</p> <p>▽作図の際、正確な作図が難しい児童がいる。</p> <p>▽デジタルドリルの活用が不十分である。</p>	<p>【第4学年】</p> <p>●振り返りと日記は継続しつつ、丁寧な書字を心がけさせる。</p> <p>●コンパスや分度器を引き続き使用し、扱いに慣れるようにする。</p> <p>▼朝の会でスピーチをする時間を確保し、メモを活用したり、授業内での発言でも常に相手を意識したりできるように指導していく。</p> <p>▼図形領域の単元が終わってもプリント等で練習させていく。</p> <p>▼授業の後半で習熟度に応じて、デジタルドリルを活用していく。</p>
<p>【第5学年】</p> <p>○計算のきまりの理解や、正確で速く計算ができるように、デジタルドリルと紙ベースのドリルとを併用し反復学習や基礎定着のためにドリルを行った。集中力が増したとともに正確に速く計算できるようになった。</p> <p>○算数科だけでなく、板書をノートに書くときや、理科の実験結果、社会科のまとめの表を書くときなどに定規等を使用する機会を意図的に設定した。その結果、定規などの作図の用具に慣れることができた。</p> <p>○国語の話合いの場面で、互いの考えを肯定的に聞き合ったり、よいところを抽出して新しい考えを生み出したりすることができた。</p> <p>▽漢字の10問テスト、50問テストに対する取り組み方、漢字の定着度に個人差がある。</p> <p>▽算数の既習事項が十分に定着していないため、つまづく児童が若干名いる。</p>	<p>【第5学年】</p> <p>●引き続きデジタルドリルと紙ベースのドリルを併用し、習熟を図っていく。</p> <p>●板書を写しきるまでに時間がかかりすぎてしまう児童も数名いる。後期は正確さや丁寧さに加えて、少しずつ速さも意識していくことができるよう声掛けをしていく。</p> <p>●引き続き国語や学級活動の時間に話合いの場を設定し、自分の考えをもったり、それを相手に伝えたりする力を伸ばしていく。友達と協働して考えをまとめる場面を設定していく。</p> <p>▼後期もテスト範囲やいつ行うかななどを事前に伝え、努力できるよう促す。よい練習の仕方をしていく児童を取り上げ、全体に広めていく。</p> <p>▼デジタルドリルの前学年の内容に取り組みせるなど、復習する場を設定する。</p>
<p>【第6学年】</p> <p>○週1回の読書の時間や読書カードを使った家庭学習の取り組みによって、日頃から読書に親しむ児童が増えた。説明文や物語文の読解力の向上にもつながってきている。</p> <p>▽既習の漢字や新出漢字の習得に差が出ている。デジタルドリルの活用があまりできていない。</p>	<p>【第6学年】</p> <p>●引き続き図書司書におすすめの本を紹介してもらったり、読み聞かせをしてもらったりしながら、読書の幅を広げていく。</p> <p>▼漢字ドリルとデジタルドリルを併用して、漢字の習熟度を上げていく。</p>